

世界史

注意

1. 問題は全部で9ページである。
2. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。
3. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
4. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
5. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

マーク・シート記入上の注意

1. 解答用紙(その1)はマーク・シートになっている。**HB**の黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する記号・番号の○を塗りつぶしなさい。○で囲んだり×をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答が1のとき)

1	●	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

4. 一度記入したマークを消す場合は、消しゴムでよく消すこと。×をつけても消したことになる。
5. 解答用紙をよごしたり折り曲げたりしないこと。

〔 I 〕 15 世紀以後の中国情勢を述べた以下の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。解答用紙は(その 1)を使用すること。

- (1) ()の時代であるこの年に、ロシア皇帝ピョートル 1 世とのあいだでネルチンスク条約が結ばれ、両国の国境を定め、貿易の規定もとりきめられた。
- (2) ()の時代であるこの年に、ヨーロッパ人との貿易は、広州一港に限定され、その運営は公行に任されることになった。一方、この皇帝の時代、遠征によって清朝の領土は最大となった。
- (3) ()の時代であるこの年に、キリスト教布教の禁止命令を出した。このため、朝廷で特別な仕事に従事している宣教師以外は、中国への居住ができなくなった。しかし、厳しい弾圧は行われなかった。
- (4) この年、西北モンゴルを拠点としたオイラトが、()を捕虜として、北京を包囲した。かわって弟が即位し、防衛につとめた。
- (5) 一条鞭法と呼ばれる税制が施行されるようになり、()が皇帝の時期に張居正が登用され、財政再建がはかられた。

問 1 文章(1)~(5)の()内に入る、中国の皇帝を次のなかから選び、マークしなさい。

- 文章(1)
- 文章(2)
- 文章(3)
- 文章(4)
- 文章(5)

- ① 道光帝 ② 順治帝 ③ 康熙帝 ④ 雍正帝 ⑤ 乾隆帝
⑥ 洪武帝 ⑦ 永楽帝 ⑧ 正統帝 ⑨ 万曆帝 ⑩ 崇禎帝

問 2 (1)~(5)の文章を、ふるい順からならびかえ、その番号を解答用紙の から にそれぞれ一つずつマークしなさい。

→ → → →

問 3 (1)の下線部に関して、国境線の確定にもっとも関係の深い地名を選び、マークしなさい。 **11**

- ① 山海関 ② アルゲン川 ③ イリ
④ バイカル湖 ⑤ カシュガル

問 4 (2)の下線部に関して、公行の性格をもっともよく示すものを選び、マークしなさい。 **12**

- ① 読書人 ② 特許商人 ③ 郷紳
④ 官僚 ⑤ 旗人

問 5 (3)の下線部に関して、ヨーロッパ人の居留先となった場所としてもっとも適切なものを選び、マークしなさい。 **13**

- ① 香港 ② 上海 ③ 泉州
④ マカオ ⑤ キャフタ

問 6 (4)の下線部に関して、もっとも関係の深い人物を選び、マークしなさい。 **14**

- ① アルタン・ハン ② ホンタイジ ③ ヌルハチ
④ エセン・ハン ⑤ ダヤン・ハン

問 7 (5)の下線部に関して、その税制ともっとも関係の深いものを選び、マークしなさい。 **15**

- ① 科田法 ② 両班 ③ 衛所制
④ 宝鈔 ⑤ 徭役

〔Ⅱ〕 地中海沿岸の古代都市に関する以下の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。解答用紙は(その1)を使用すること。

[A] クレタ島のクノッソスは(ア)によって発掘され、迷宮のような構造と生き生きとした壁画の数々によって有名である。ミノア文明と名付けられたその文明の謎を解き明かすべき線文字Aは未だ解読されていない。それに対してミケーネ期の線文字Bは(イ)によって解読されている。

[B] (ウ)にあるシラクサは前五世紀から四世紀にかけてディオニュシオス父子の下に繁栄し、哲学者プラトンなども度々訪れている。その後、ポエニ戦争^(a)の際にローマに攻められるが、浮体の原理の発見者としても有名な物理学者(エ)は様々な武器を考案してローマ軍を悩ました。

[C] 小アジアの西部沿岸に位置するこの都市は、古くは哲学者ヘラクレイトス^(b)の出身地としても有名であるが、(オ)年^(c)には皇帝(カ)の命により開かれた公会議においてネストリウス派が異端とされた。

[D] このエジプトの海港都市アレクサンドリアには、大規模な研究機関であるムセイオンが設けられ、当時エジプトを支配していた(キ)の庇護の下、ホメロスを初めとする古典テキストの編纂や自然科学の研究が行われた。このムセイオンと関係の深い学者の中でも、地球の周囲の長さを算出した(ク)や地球の自転と公転を見出した(ケ)や幾何学の(コ)などが有名である。

[E] ペロポネソス半島の付け根に位置するこの都市は、その名が柱頭の様式の^(d)一つにも冠されている。前(サ)年には、カイロネイアの戦いに勝利したばかりのマケドニアが、覇権の確立を目指して同地でヘラス同盟とも呼ばれる全ギリシア的な同盟を結成した。

問 7 空欄(サ)に入れるのもっとも適切な数字を一つ選び、その記号を
マークしなさい。 22

- ① 378 ② 337 ③ 333 ④ 323

問 8 空欄(エ)に入れるのもっとも適切な人名を一つ選び、その記号を
マークしなさい。 23

- ① エピクロス ② エラトステネス ③ ピタゴラス
④ アルキメデス ⑤ エウクレイデス ⑥ アリストテレス
⑦ デモクリトス ⑧ アリスタルコス

問 9 空欄(ク)に入れるのもっとも適切な人名を一つ選び、その記号を
マークしなさい。 24

- ① エピクロス ② エラトステネス ③ ピタゴラス
④ アルキメデス ⑤ エウクレイデス ⑥ アリストテレス
⑦ デモクリトス ⑧ アリスタルコス

問10 空欄(ケ)に入れるのもっとも適切な人名を一つ選び、その記号を
マークしなさい。 25

- ① エピクロス ② エラトステネス ③ ピタゴラス
④ アルキメデス ⑤ エウクレイデス ⑥ アリストテレス
⑦ デモクリトス ⑧ アリスタルコス

問11 空欄(コ)に入れるのもっとも適切な人名を一つ選び、その記号を
マークしなさい。 26

- ① エピクロス ② エラトステネス ③ ピタゴラス
④ アルキメデス ⑤ エウクレイデス ⑥ アリストテレス
⑦ デモクリトス ⑧ アリスタルコス

問12 下線部(a)の戦争は何回行われたか、もっとも適切な数字を一つ選び、その記号をマークしなさい。 27

- ① 1 ② 2 ③ 3 ④ 4

問13 下線部(b)に入れるのもっとも適切な都市名を一つ選び、その記号をマークしなさい。 28

- ① エフェソス ② ニケーア ③ ミレトス ④ カルケドン

問14 下線部(c)へラクレイトスの思想としてもっとも適切な文章を一つ選び、その記号をマークしなさい。 29

- ① 万物の根源は水である。
② 万物の根源は数である。
③ 万物は流転している。
④ 万物は原子(アトム)からできている。

問15 下線部(d)の都市名としてもっとも適切なものを一つ選び、その記号をマークしなさい。 30

- ① アテネ ② スパルタ
③ テーベ ④ コリント(ス)

〔Ⅲ〕 以下(A)~(E)は、クリミア戦争参戦国の指導者に関する文章である。空欄(1)~(20)にもっとも適切な語句または数字を入れなさい。解答用紙は(その2)を使用すること。

(A) 1825年、を鎮圧してニコライ1世は即位した。彼は積極的に南下政策を推し進めていく。ロシアは、翌1826年から1827年にかけて朝イランと戦い、1828年の条約により、の大半を獲得する。同1828年から1829年にかけて、ギリシアの独立運動を支援して、オスマン帝国と戦い、1829年のアドリアノーブル条約により、北岸を獲得する。そして、戦争に干渉してオスマン帝国を援助し、1833年のウンキヤル・スケレッシ条約によって、両海峡の独占の通行権を獲得する。しかし、1841年、イギリスの主導による国際海峡協定で、同条約は廃棄されることになった。1853年、イエルサレムの管理問題を直接の原因とし、オスマン帝国とのクリミア戦争が始まった。この戦争は、イギリス・フランス・サルデーニャがオスマン帝国側に立って参戦し長期化する。そして、ロシアが苦戦をつづけていた1855年、ニコライ1世は急死した。

1855年、クリミア戦争のさなかにアレクサンドル2世は即位した。そして、翌1856年、パリ条約が締結されて戦争は終結し、ロシアはの中立化に同意し南下政策は頓挫する。クリミア戦争の敗北は自国の後進性を強く認識させ、アレクサンドル2世は年の農奴解放令発布などの諸改革を行った。しかし、それらは不徹底なものであり、革命運動は高まっていた。そして彼は過酷な弾圧でこれに対した。1881年、軍事パレード観閲の帰路にアレクサンドル2世は暗殺された。

(B) 1839年、西欧化を推進した (9) の後を継いでアブデュル・メジト1世が即位した。同年、イスタンブールの (10) 宮殿内の庭園で、改革の基本方針である (11) 勅令が発布された。ここにおいて、全臣民の法的平等、生命・名誉・財産の保障などが宣言され、タンジマートが本格的に開始された。1853年、ロシアとのクリミア戦争が始まり、翌1854年には、イギリス・フランスがオスマン帝国側に立って参戦した。そして、1856年には、両国との協議を経て改革勅令が発布され、非ムスリム臣民の権利が拡張し、西欧諸国の干渉は強まっていく。同年、パリ条約が締結されて戦争は勝利で終結する。1861年、西欧化を継続したアブデュル・メジト1世は死去し、後を継いでアブデュル・アズィーズが即位した。

(C) アバディーンは、1841年から1846年まで、ピール・保守党内閣において外相を務めた。1846年には、アメリカとの共同領有となっていた (12) を分割して国境線問題を解決したが、 (13) 廃止をめぐってピールとともに辞職した。その後、アバディーンは、1852年から1855年まで、ピール派・ホイッグ党連立内閣の首相を務める。そして、彼の辞職のきっかけとなったのは、クリミア戦争であった。1854年、ロシアの南下政策に反発を強めていたイギリスは、フランスと手を結び、ロシアに宣戦布告した。しかし、最大の激戦となったセヴァストーポリ要塞包囲戦は長期化し、1855年、指導力を問われたアバディーンは辞職に追い込まれたのである。

パーマストンは、1835年から1841年まで、メルボーン・ホイッグ党内閣において外相を務め、在任中の (14) 年、清とのアヘン戦争を起こしている。彼は、1855年に、アバディーン内閣にかわって、パーマストン・ホイッグ党内閣を組閣する。1856年にパリ条約が締結されてクリミア戦争がイギリス側の勝利によって終結されたこともあり、1858年～1859年の一時期を除き、1865年に没するまで首相を務めた。在任中には、インド大反乱の鎮圧に努め、アメリカ南北戦争に対しては中立を維持した。

(D) 大統領ルイ＝ナポレオンは、1851年、クーデターを起こし強大な統治権を掌握した。翌1852年には、国民投票によって帝政復活が承認され、皇帝ナポレオン3世となった。対外戦によって国内の支持を保持しようとしたナポレオン3世は、トルコ、イタリアへの介入を進めた。1854年には、クリミア戦争にオスマン帝国側に立って参戦し、1856年、勝利する。1858年には、サルデーニャ王国の首相カヴールと (15) の密約を結び、1859年のイタリア統一戦争において同国を支援してオーストリア軍を撃破した。また、ナポレオン3世は、アジア、アフリカへの進出も積極的に進めた。さらに、1862年には、 (16) 大統領の対外債務支払い延期宣言を理由にメキシコへの侵攻を始め、1864年にはハプスブルク家の (17) をメキシコ皇帝に擁立する。しかし、1865年に南北戦争が終了すると、アメリカは積極的に (16) を支援するようになり、結局、1867年にフランス軍は撤退し (17) は銃殺された。このメキシコ出兵の失敗で威信を失ったナポレオン3世は、さらに、1870年、プロイセン＝フランス戦争において (18) でプロイセン軍に降伏する。そして、第二帝政は崩壊した。

(E) 1852年にサルデーニャの首相となったカヴールは、対オーストリア戦に備えてイギリス・フランスとの結びつきを強めるため、同国をオスマン帝国側に立ってクリミア戦争に参戦させた。1856年、講和会議に出席した彼は、フランス皇帝ナポレオン3世や各国代表とのつながりを構築していく。1858年には、ナポレオン3世と (15) の密約を結び、1859年のイタリア統一戦争においては、サルデーニャ・フランス同盟軍はソルフェリーノの戦いでオーストリア軍を撃破する。しかし、ナポレオン3世はサルデーニャの承認なしに単独でオーストリア側と講和し、カヴールは首相を辞任する。そして、三カ国の間で正式にチューリヒ講和条約が締結され、 (19) がサルデーニャ領となった。翌1860年に首相に復帰したカヴールは、ナポレオン3世と取引し、 (20) とニースをフランスに割譲し、中部イタリアを統合した。同年、ガリバルディは征服した南部イタリアをサルデーニャ国王に献上する。そして、1861年、イタリア王国は成立する。しかし、同年、イタリアの首相となったカヴールは急逝した。

